

北海道建設新聞

2006年(平成18年)10月19日(木曜日)



橋の構造を間近に見て、見聞を広めた

「いい刺激」と感心の声

日本橋梁建設協会が主催

北海学園大の学生が現場見学

【岩見沢】日本橋梁建設協会(伊藤学会長)は17日、

北海学園大工学部社会環境工学科の4年生16人を招いて、橋梁とトンネル工事の現場見学会を開催。土木工事の仕事を指す学生からは「いい刺激になった」と満足げな感想が聞かれた。

来年度から社会人となり、土木工事現場で働く学生に、建設業の魅力とやりがいをも認識してもらおうと企画。工事を発注する札幌開建の協力を得て実現した。

見学地は夕張スーパーポロダム建設に伴い、付け替え工事が進む国道452号の千年橋(ちとせばし)架換と、スーパーポロトンネル建設の2現場。

最初に千年橋の現場を訪問。千年橋は橋長442・7メートルの鋼9径間連続複合ラーメン橋で、進ちよく率7割。桁の架設を行っている。

学生は大学で専門的に土木の勉強をしているだけに、現場責任者や札幌開建の担当者の説明の中に交じる専門用語にも理解を示した。

学生の一人は橋のスケールの大きさに「子どもみたいな言い方ですけど、すごいなあの一語です」と感心していた。